

令和6年度第7回青谷地域振興会議議事概要

日時：令和7年1月23日（木）午後1時30分～3時00分

会場：青谷町総合支所 第1，2会議室

【出席委員】

長谷川和郎、濱江和恵、徳田章人、松下達夫、久野浩太郎、植田 隆、前田幸一、長谷川大之、塩とみ子、松岡礼子、大石剛史、大谷 茜

【事務局】

佐々木支所長、田中副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷町分室長）、高野産業建設課長、金崎市民福祉課長、山田地域振興課課長補佐

【日程】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ 長谷川会長
- 3 議題

【報告事項】

- (1) 令和6年度の地域の未来づくり懇談会、地区座談会の開催結果について
(資料1、2)

【協議事項】

- (1) 地域未来プランおよび実施計画について
(資料3)
- 4 その他
- 5 閉会

≪議事概要≫

<報告事項>

- (1) 令和6年度の地域の未来づくり懇談会、地区座談会の開催結果について
事務局より説明

【委員】空き家対策は、これまで何回か話し合いの中に出てきているが、このたびの報告でBFO じげという名前が初めて出てきた。一番ネックになってるのは、この団体が空き家を見つけて活用しようとした時に、連絡先がわからないとか、現在の所有者の氏名や住所が不明であるなど、そういう問題が出てきて取組の進展にストップがかかってしまう。

このことについて、団体の支援というか、もっと地区を挙げて取り組めないか。

例えば転居される方は、市には転出届を出したり、区長さんに対して転出の挨拶や連絡をしたりする。そういう時に、市の方から例えば簡単なアンケート調査を実施して、どこに行かれますかとか、代表の方に連絡してもいいですかとか。個人情報も配慮しながらなんですけど、そういったことを情報収集することによって、情報が入りやすくなると思うがどうか。

【事務局】空き家の情報は把握できる方法が中々無く、今は個人情報重視の時代でして、例えば空き家があっても、その所有者を近所の方がどこに行ってるか知っておられたら、その方にお伺いして、所有者に情報提供しても良いか伺う、というやり取りの形が今のところ限界のようです。また、市の方でも個人情報を出していいか基準を今後は考える必要があると思います。

【委員】大事なことだが、今の空き家対策はもうそういう事情で全然過去されてなくて、ずっと流れてきたから、もうみんな知らなくなっちゃって、やっぱり可能な限り情報がいただけるような仕組みがあれば違うのでは。

【事務局】市の方でも BFO じげから空き家があるけど所有者が不明で連絡が取れず困ってる、という話は伺ったことがあります。現在市の取組で固定資産税を払っている所有者に対してアポイントを取っていくことができないかを検討しています。個人情報の壁は結構大変なことで、今区長さんに聞いても、簡単には個人情報は教えないみたいなことを言われたりするので、やはり区長さん自身も個人情報のことを気にされるので、その中で法律の壁を何とか越えながら、今聞いているのは、危険空き家と同じような扱いで固定資産税課の納税者データの方に、一旦この住宅は空き家じゃないかっていう報告をもらって、そこから確認をして税金を納めてる本人さんに、空き家で活用したいという話があるけど、良かったら連絡をとってもらえないかと、個人情報は団体には教えられないけど本人から連絡をしていただけませんか、みたいな取組を今研究しております。

先ほどのお話で個人情報の壁があるので、やっぱり本人さんに直接聞くのが一番いいので、窓口に来たときとかにアンケートを取るなどはすごく有効なことだと思いましたがぜひこれから研究をさせていただきたいと思います。

【委員】空き家の問題について、何かの団体や場所で協議することができないか。資料を見ると鹿野で中山間地域の利活用を具体的に補助事業でしておられるし、良いことだと思う。青谷地域でも勝部小学校や日置小学校などが空いているし、色々な活用が出来ると思うので、こういう情報をもっと出していただきたい。

【事務局】青谷町は空き家が多いけれども、例えば売り出し中とか、そういった看板があんまり出てないようです。旧市域の方ですと、空き家があれば大体、売り出し中などの看板よく出るんですけども、あんまりそういった不動産の流動性がないのかなと思ってるところです。先ほど転出とかされる方にアンケートといい話を伺ったんですが、個人情報の話もあったりしていろいろ難しいハードルもあるんですが、一つちょっと今思いついたのが、例えば転出された方が不動産を処分したいというお気持ちがあるのであれば、ここに連絡してくださいというような、やり方が分かるようなものを窓口でお示しできれば、そういった方

は連絡をされるのではないかなというふうに思ったりしますので、ちょっといろいろ方法を考えてみたいと思っています。

【事務局】地区座談会の開催形式ですが、未来づくり懇談会と似てる形で、総合支所の方で企画してやっているんですけど、実はこの会は青谷のみの取組で、ちょっと今年いろいろご意見をいただく中でこの座談会的な形式というか支所対地域の形式がちょっとまちづくりの議論をするという雰囲気の中々合わないと思っております。次年度以降は、各地区のまちづくり協議会で開催されるまちづくりの議論の場で、例えば語る会というような場所があったりします。そういったところに支所の職員が参加させていただくなどの形に改めていけたらなというふうに考えていますのでその辺についてもご了承くださいたいと思います。

【委員】一括交付金制度はまだ14地区ぐらいしかやってないけど方向的にはこの方向に行くんですね。

【事務局】支所の方でも各地区公民館まち協の方とお話を少しずつ進めていって増やしていければと考えています。

【委員】方向的にまちづくりの一括交付金が出せるような形は確かに使いやすいと、同じような重複したような事業があるってということも含めて、効率的に地域づくりができるのでここはどんどん進めるべきと思う。ただ、これを進めていくにあたって地域に対して行政の方から進め方について支援をしていただくことが必要。それぞれ7年度から検討されるということですけど、他の地区も合わせて本当に何がいいのかっていうことを分かち合ってもらって、という事をどこかで支援をしていくのがありがたいと思う。

【委員】19ページに書いてあることがとてもいいことだと思って、私個人的に電話が「空き家知らんか」という問合せがこの数年で何件かかかってきたことがある。自分たちのメンバーだけでなく役場の人と一緒に歩いていたら、公平性、公正感があると思うし、BFOさんだけが空き家を探すんじゃなくて、皆で協力しながら、この人がおるなら話してもいいみたいな環境に持っていけたらもうちょっと空き家を何とかしてみようって思う人も増えるかと思う。

【委員】BFOじげについて説明してほしい。

【事務局】BFOじげは元々浜町から桑原に上がる県道の消雪管を管理するため団体が母体になっていると伺っています。理事の人数までちょっと把握していませんが、発足から少しずつまちづくりの方に支所も協力をお願いしていて、かちべ伝承館の指定管理を受けられたり、さらに移住定住の業務を受けていただいたり、そういった形で管理団体ぐらいから一気にまちづくり団体に膨らんできたような、そういう変遷を持っている団体です。

【委員】団体の周知ってのはとても難しいと思うし、何か活動するってなったときに、情報集めるっていうのも大変じゃないか。おそらく日置の方はBFOじげがどういう団体でどういうふうな人がいるかっていうのは知らないんじゃないかと思います。そう考えたときに、空き家になったときも、やっぱり野菜みたいに旬があると思う。ずっといい状態ではないので、旬があるから早めに動くことはすごく大事。アンケートもその一つだと思う。私の家の

周りは全部遠くに出ていたり施設に入っていて留守なんです。家の管理はできてないですけど、一応住んでおられる。入院費なんかも払っておられるから、まずその BFO じげの方が活動されようと思われるんだったらそういう実態を地域の自治会の代表の方と会合したりして把握して、少しずつ、全部とは言いませんけど少しずつでも把握してもらいたいな、中で出せる情報っていうのもあると思う。それをお願いしたい。

【事務局】支所の方としても相談がありましたら、BFO に相談できますというようなことをご案内の方で今後も続けて機会があれば行っていきたいと思います。

<協議事項>

(1) 地域未来プランおよび実施計画について

事務局より説明

《青谷ようこそ館について》

【委員】3番のようこそ館、これの費用はどうせ人件費等々でしょうけど、せっかくされるならもうちょっと明るくして町の有名な綺麗な土産でも並び替えて。青谷の名品じゃないけど、例えば野菜でも綺麗で安いものが置いてあれば買いに行きます。

【委員】10月に公募が出て、私も地域振興会議に出ると、ようこそ館がもうちょっといいようになったらというお話を伺って、その通りだと思ってたんで協力してやってみようかということになりました。そこで協議会を立ち上げて、その名前が「あおや未来づくり協議会」という団体で応募したのです。その地域の人が集えるような、地域の人がやっている店としたいと思って、4月1日から私達あおや未来づくり協議会が運営していくので、観光の拠点だったり、今日議題にも上がった空き家のことだったり、ちょうどようこそ館は取り組んでいくにはすごくいい立地で、日置と勝部の間で青谷地区にもあって、いい拠点になればと思ってるので、よろしくをお願いします。

【委員】野菜が安く買えたり、コーヒーが飲めたりするようにしてほしい。

【委員】暗いイメージがあります。建物正面から見たときに半分は窓がありませんもんね。こっちは垣根でシャットアウトしてあるし、しかも垣根が結構高い。裏は車通りだから全くシャットアウトしたような雰囲気なのでもうちょっと何とかできれば。

【委員】誰に向けての施設なのかっていうのが問題。観光客も地域の人も両方だと思う。

【委員】地域の人も集うようなところじゃないと観光客の方もなかなか集まらない。地域の方の意見等がどんどん入ってくるような形のオープンなお店にして。

【委員】この677万というのは委託費か、それとも改装費か。

【事務局】1年間の指定管理料の金額です。今のところ5年間の指定管理なので実際にはこれ5倍の金額を予定しています。先ほど修繕費っていう話がでてきたんですけど、心配してるのが今あの加工施設って加工する機械が入ってるんですけども、今のようこそ館の人員

体制の関係でその加工する機械が使われてない感じなんです。その状況の中で4月以降加工ができるのかっていう心配をしまして、その辺につきましても4月以降の指定管理者さんと一緒になって、どうするかっていうのを考えていければなと思ってるところです。

【委員】修繕は屋根について以前から言われている。そういうのを直してあげるっていうのも市からできないか。

【事務局】その辺も対応していきたいと思っております。

【委員】確かにかなり老朽化しているものがある、使っていないと余計劣化しちゃってるんでこのところを、いい具合に直してもらって、綺麗なところからきちんと衛生管理しながらね、やっていただくっていうことが大事だと思う。

【委員】職員の方の人件費もすごくかかってくると思うんですけど、うまい具合に地域の意見を入れるというような形で、地域ボランティアの方を活用しながらしてもらったら、自分たちの盛り上げている場所ってあるので、地元意識も芽生えてくるんじゃないかと。そして人件費も4人雇うところ3.5人で済んだり、いろいろなことを工夫してもらったら、いいんじゃないか。

《青谷正月マラソンについて》

【委員】13番の青谷正月マラソンですけど、参加してみて本当に素晴らしい催しものだと。寝て過ごすような正月にならず、もう朝から本当にいろんな人がお店の人も役員さんも出てきなって本当にいいイベントだと。散歩フェスを開催して、やっぱり毎年やってく大変さもわかる中、チラシを見たら第51回だから本当すごい素晴らしいと思った。

【委員】はい、ありがとうございます。半世紀以上ずっと私も携わってきました。元々は今のスポーツ推進員さん、前の体育指導員さんですね。そこが始めたんですよ。軌道に乗ってきたもんですから、体協にどうぞとプレゼントしたっていう流れがあってですね、よく確かに続いています。特に今年は250人ぐらい、例年よりは50、60は少ないかもしれないんですけど、なんでこんな多かったのって聞いたら、正月マラソンは他にもあるんですけどタイムを取ってくれるところがないらしくて3000mとか5000m、これのタイムを我々は取るんです。そういう大会をやっぱりよく知ってて、プロ級の方はね、こっちに来られたんじゃないかっていうふうに分室の方は言うておられました。とても正月早々、賑やかな、そんな経緯があって定着してるんです。

《青谷高校活性化について》

【委員】17番ですけどオープン卓球ともう一つ、上寺地遺跡のことが書いてあるんですが、分類からいったらこれは13番に入りそうな内容かと思う。青谷高校の件でプランの方を見ると青谷高校の活性化の14ページのところで、優先的に取り組む事項の書いてある内容が予算化がなかなかされてないと思う。さっき市では今後付け足すものがあればまた今後考えていく、っていう話だったのでそういうこともあるという中で、青谷高校と例えば町との

意見交換会、以前にも質問をさせていただいたことがあるんですけど、青谷高校活性化を支援する会であるとか、学校のあり方を考える協議会であるとか、それがどこが主体なのか、学校が主体なのか市が主体なのかわからないけど、過去に区長が出るような会が一回も開催されていないんじゃないかなと思うので、それを学校の考えるベクトルと、それからこの未来プランの市が考えるベクトル合わせの部分の中で市が支援できる部分とか、そういうところをやっぱり協議しながら、もし予算化できるものがあればしていただきたいと思います。プランの中のいわゆるイメージに書いてあることと、予算化のところ、ちょっと予算化の部分が弱い感じがしております。要望も含めて。

【事務局】一番最初にお話いただいている通り、今年の予算についてはなかなか従前の分がちょっと抜けられていないところもございまして、こういう形になってるんですけど、今後また検討して行って、具体的に学校の目指すベクトルという話もございましたので学校としても地域に残していきたいという事をはっきりおっしゃられてるので、そういったことを支所や地域の中でどういった支援ができるかを検討していきたいと考えています。

【委員】やっぱり校長が変わると学校経営の方針が若干変わってくところがある。学校が何を支援してほしいとか、そういう部分が明確にみんながわかるっていうことが大事だと思うので、学校でできることと、行政が仕上げるような区分から進めていくことが必要かと、学校の先生と話し合いをする場がないといけんと思う。

《地域共助交通について》

【委員】9番の地域交通の件なんですけど、共助交通の移行っていうのがあるんですけど、共助交通のイメージというか、こうなったらこうしたいっていうか、市の方でこういう形にっていうのがあれば説明してほしい。

【事務局】支所としてこうやって共助交通を走らせたいっていうイメージの話ですか、それは今、青谷支所としては持ってません。まず地域として考えていただきたい。それを基に議論しましょうということですので、まず地域として考えていただきたいというスタンスをとっているところです。

【委員】行政じゃなくて地域が先ということ。今みんながまだ免許証を持って運転できるので今はあまり本気にはなっていないと、私もそうなんだけど、でもそうになっていくんだよね、実際には本当に。自分たちでの村は自分たちで守っていくっていう、そういうことがない限りは、なかなか支援しにくいよね。それぞれの地域として考える、実態に合わせて。

【事務局】産業建設課としては、各地域のまちづくり協議会に共助交通について検討してくださいっていうお願いをしています。なぜまちづくり協議会にお願いしているかというのと、まちづくり協議会の設置目的っていうのが地域課題を把握して、自ら解決しましょう。そのために作られたのがまちづくり協議会です。まさにその地域の皆さんの生活交通どうしようかっていうのはもうまさに地域課題だと思うんです。ですから、まず地域課題を考えるまちづくり協議会、5地区あるそれぞれのまちづくり協議会に振らせていただいているって

う状況です。

【委員】地域事業者との関連については、置いといてと、そこは度外視していかないと。

【事務局】共助交通を導入しようとする際には地域事業者の承諾が必要になってきます。ただその承諾がどういう条件が出てくるかわからない中で、地域事業者とも話ができないので、今はもう自由な発想でもらったらいいのかなというふうに思っています。今、まちづくり協議会の議論はあまり進んでないと思っています。なぜそう思うかという、各共助交通を考えるうえで一番ベースになるのがニーズ調査だと思います。誰がどこにいつ行くのか、例えば河原からサンマートに、何時の便で週に何回行くのとか、そういうニーズ調査が一番大事だと思うんですけど、そのニーズ調査をしますっていうことが全然聞こえてこない。だからこちらとしては中々進められていないと思っているので、今後加速させていきたいと考えているところです。

【委員】まちづくり協議会の委員ということ話をされたんですけど、まちづくり協議会を作った意義について話をされた。各地域の課題を解決するために、大変いいですけど、私もよく実態は知らないんですけど、協議会はあっても、例えば私達がまちづくり協議会何々部の主催事業ですよ、まちづくり協議会の方は部長さんしかおられん、他の人はどうかいなっていう会がとっても多いんです。先ほど会長がまちづくり協議会の活性化に対する市としての何らかの支援をしてほしいなという意見があったんですが、地域が頑張ってる盛り上げればいいんですけども、青谷地域の振興を図る上で必要な条件「市民自らがまちづくりや課題に関心を持ち、主体的に取り組む機運を醸成すること」って書いてある。ここなんですよ、大谷さんたちは本当に頑張っておられて後に続けなきゃいけないけど、行動力がない私達は参加することしかできない。せっかくこんなにいいことが考えてあるのに、みんなが知らなかったら意味がないなという、そういう話です。

【委員】先ほどまちづくり協議会が地域の課題を解決するというようなことであつたんですが、共助交通もその内の一つだと思うんですけど、日置の会合には何回か出る中で、共助交通のことも言われます。今便利になってみんなが多少なりとも利用が増えてきてってことでこの間も資料で示してくださったんです。その後どうなるんだろうっていうのがやっぱりみんなの中にもあります。そのときにこの間も出てたんですが、日置だけじゃできないよね、というのがあって、どうなるんだってなったときに、今度何らかの形で町の全体の会議があると思うから、そこで出るかもしれませんとか言われて、それでいいのかなと思ったり。日置だけではどういうふうに走らせるとかという感じが分からないと思うので、もし具体的に欲しいということでしたらそのアンケートの取り方なんかを共助交通の会議の方で、地域としてはこういう感じの時間帯があつたりここに出る人が多いから欲しいんだ、これが日置谷と連動するんであれば、同じような時間帯でみんなが青谷まで出てこれるような線の組み方とかも出てくるんですけど。最終的にとどのつまりは、日置だけではどうもならんよねっていうのが会議の中での実際のところなんです。

【事務局】そういう相談はちょくちょく来ます。日置だけではできないとか、どれだけ考え

て、その結論を出したのって言ってます。証拠は、根拠は、まだそういう域に行っていない、ちゃんと集めてみてください。まずそこからしてみませんかという話をさせてもらってます。そこまでまず雰囲気でもう最初からできないんですっていう状況があれば、最初から日置谷と一緒にあって、そっから本気で考えるっていう手段もあるかと思います。その辺を考えられていますかっていう話はさせていただいてるところです、決してこちらは逃げてるわけではなくていろんな相談があれば、一緒になって考えていきます。

【委員】逃げるとかいうんじゃないけど理解がそこまでだっていること、地域の役員の方の理解がそこだっていることです。

【事務局】共助交通って大きな問題なので日置だけで解決しきれないんじゃないかというご意見が出て、確かにそういうこともあるかもしれないなというふうに感じたところなんですけれども、そうなったときに、結局まち協のエリアにこだわらないもうちょっと広い範囲の話とかあってというのが存在すべきだと思うんですけど、実は私もちょっといろいろ勉強する中でちょっとまず、青谷地域のまちづくり協議会がお互いに話をする機会が実は全くないんです。日置だけじゃ抱えきれん話だっている話を相談する場所が、支所にいただいているんですけど、なかなかないっていうのが課題だなと思っておりまして、会長さんが集まるのがいいのか、誰が集まるのがいいのか、そういったまちづくり協議会同士の話をする場所っていうのを、今後やっぱり作っていく。その場を作るのは総合支所の方でやるべきだと思いますので、そちらの方でそういった今の話なんかもちまち協さんの中でこんなことで困ってるとかそういう話が出てくると思うんですけど、そういったところの情報共有になるとか、一緒になって考えるっていうような機会を作っていくっていうことを、これからちょっと考えていきたいなと思ってるところです。

【委員】バスの件ですけど、1か月間の行程を書ける人を書いてもらって、例えば1週間に2回は買い物に行きたい、時間帯やお医者に行きたいとかを具体的にアンケート調査をするのも一つの手かもしれないと思って、全体でなく書ける人は書いてくださいってことで。

【事務局】まさに言われた通りで、まちづくり協議会がそういう調査をされるかどうかという動きが出てくるのを今見てるところです。

【委員】要するに部落がタクシー会社を経営する気で、そういう考えで地区が要するにタクシー会社をしたら何台要るかっていうことでしょ、最終的には。

【委員】地域のアンケートを自分たちですていくためにはどういうアンケートにせないけんかという相談もないという話で、そこからスタートすると理解しておられるんですね。

【委員】組織の話なんですけどね、まちづくり協議会っていうのと自治連というのがある。自治連っていうのは多分地区の区長さんが出てこられるところ。まちづくり協議会っていうのは各地区の代表者が役員さんなんですか。私が知ってる範囲は各地区から委員出せよって名前だけでいいからと言われて、まあだっただけとなっていて決まっています。来年は誰ですって感じで、そういう感じの方がまちづくり協議会の方に出ておられて各集落の代表者という意識があまり無い。でも今の話でいくと、各集落の代表者の方が話し合われた方

が、まちづくり協議会の一部の方でなくて 各地域の意見が吸い上げられて、なんて思ってその組織を知らない私が言う話なのでなのでちょっと教えてほしいなど

【事務局】まちづくり協議会についてのことになると思うんですけど、まずまちづくり協議会ってというのは地区単位で組んでます。自治連ってというのは、あくまで自治会の組織の集まりなんです。まちづくり協議会ってというのは、地区の集まり、青谷だったら青谷がまず最小単位です。そこがまず違うんですけれども、どんな人が役員になるかっていうのは地区ごとに違うんです。青谷は自治会の代表の方がまち協の役員をするっていうシステムをとっていらっしやいます。一方で他の地区では実はまち協の部長さんとか会長さんは 自治会から推薦された方とかが何年か続けてやるというようなそういう形をとっていらっしやるまち協さんもあります。そのあたりがまち協さんの方針なものですから、今いろいろ情報を聞きながら、例えば 1 年交代だったら継続的なことができないよねとか、そんな話もしたりして、その組織体制を見直していく必要がありますねとか、そんな話をようやくちょっと今しているような状況なものですから、青谷のまち協単位でのそういった自治会の方で話したほうがいいんじゃないのって思われるのは、青谷のまち協さんの組織体制がちょっとなかなか機能しにくくなっているっていうこと、おそらく感想なのかなというふうに感じました。

【委員】地区によっていろんな形がある。やりやすいような形を考えていただいたらと思います。ただ気になるのは、そのまちづくり協議会の事務局長ってというのは誰かご存知？皆さん。公民館長が事務局長とかぶつとるわけです。本来なら忙しいはずなんです。そこがやっぱり見直す必要がこれから先あると思います。考えてみてやっぱり一括交付金制度の一つにまとめていかないかんとというのは、もうそこにあるような気がしますね。

【委員】日置の場合は一括交付金になってもやっぱり事務局長は公民館長なんです。それぞれの組織があってその組織に加入する人には、必ず地区の区長が入ってるんです。その組織の中に区長が入ってて区長がその組織のまとめをするのがいいんじゃないかっていう意見が出てたんですけど、そうじゃなくって区長は 1 年替わりで交代してしまっ、なかなか把握ってことはできないからまち協は違う人になる方でいいんじゃないかっていうことで提案しまして、次回検討しようということになるんですけどなかなか難しく、4 集落しかないんですけど村を動かすのは区長なんです。防災にしても何にしても区長が中心になって、区長の一括命令だったら届けができるってな感じになってるところもあったりして、組織の中に区長を外せない。

【委員】共助交通のイメージには出せませんが、いつぐらいに移行したいな、というイメージは？もうそのままもう皆に任せるっていう感じなんですか。

【事務局】今は様子を見させていただいてます。ですが、委員の皆さんとかに伝えている事は、大体共助交通に取り組みうって決めてから、実際に走らせられるまで、2年から3年かかりますよ、という話はしてます。

【委員】ここに書かれてるような移行を進めるまでは市が主体としてっていうふうにか

である。だから移行しなければずっと市がしてるっていう感じですよ。

【事務局】今市が方針出してるんで、当面の間ってエンドレスでないの、だからずっと市が青谷バス走らせてくれるんじゃないのっていう雰囲気がずっと流れてるんですよ。特に今の青谷バス比較的好評ですし、このまま青谷バスでいいんじゃないのっていう話が出てくるんですよ。でもそれは協議会が出してる方針とは違うので、あくまでも青谷バスは繋ぎなので、その繋ぎをいつまでするかです。だからいつまで青谷バス走らすってことは今考えてない。

【委員】考えてないとのことだが、いつまでで切るっていうのははっきりと言っておかないと、なんかこっちもずっと走るんじゃないかと思っちゃうので、その辺はうまいこと説明した方がいいんじゃないかなと思います。

【事務局】はい。その辺も頭にあるんですけど無理やりこっちから3年とか5年とかいうふうに強制的には切りたくないんです。それぞれ皆さん地域の都合があるので体制ですとか歴史ですとか、いろんなバックグラウンドがあるので、こちらから切りたくないの今は様子を見させてもらっているところです。

《人口減少について》

【委員】今までのお話であるように、やはり一番の問題は人口減少、急激な減少問題だと思います。昨今、非常に青谷がマスメディアで取り上げていただきましていろんなイベントのおかげで知ってもらうことができ、そして来てもらうこともできていたと思います。あとはいかに住んでもらうか。もう一つ何か、アイデアを出してぜひとも青谷に来ていただけるように住んでもらうように、これだっというアイデアはなかなかありませんけども、だからこそ市町村単位だったら、昔でしたらいいかもしれないけど、今はやっぱり鳥取市ってなっていますので、青谷町だけ特別に何かというのはないと思いますけども、何かしらの青谷ならではの特色を活かして住んでもらえるような計画を来年度から未来プランとして出していればなと思います。

4. その他

(1) 地域振興会議会長会について

事務局より説明

【事務局】2月6日に地域振興会議会長会が開催予定で、青谷からは会長と支所長が出席予定です。内容は、地域振興会議が約10年、この10年間の総括と地域未来プランの概要について意見交換を行うということで、その後、懇親会もあると聞いておりますけども会長から何かこの件についてございますか。

【会長】地域未来プランについて皆さんからワークショップとしていろんな地域課題を出していただいた。それらをもとにして、次の地域の現状と課題を掲げてですね、それを他

地域と連携しながら解決していく、という方向になろうかと思っております。

ずっと私もずっときましたけど 鳥取森田の跡地。全然前に進まないっていうところまで言ったんだけど、そうは言ってもさっきあるように人口減少に歯止めをかけるにはやっぱり企業を誘致したり、やっぱりみんながそこを綺麗に整地してそこで楽しめるような場所にしなきゃ人が集まってきて移住定住をしてくれる、そういうことに繋げて行ってほしいというふうな願いを込めてちょっと文章を作ったんですけど、思いだけでは駄目なので、会長会では、みんなの委員さんの思いは伝えたいと思っています。

※次回日程は令和7年2月18日に決定。

以上